

新春対談2018

小島進 × ゴルゴ松本

〈深谷市長〉

〈深谷市出身・お笑い芸人・深谷市親善大使〉

深谷市（旧花園町）出身でお笑い芸人のゴルゴ松本さんと小島市長が、ふるさと深谷への思いについて、熱く語り合いました。また、『深谷への思い』を表す一文字をそれぞれ選んでもらいました。

果たして、どのような思いでその文字を選んだのでしょうか。そして、ゴルゴ松本さんならではの文字の解釈も、ぜひご覧ください。

ゴルゴ松本さんのふるさと深谷の思い

小島市長 ゴルゴさん、本日はお忙しい中、ありがとうございます。
ゴルゴ松本さん（以下、ゴルゴさん） いえ、深谷のためですからね。今日はしっかり「ぶっかちゃんネクタイ」をしてみましたよ。
小島市長 よくお似合いです。
ゴルゴさん ありがとうございます。
小島市長 ゴルゴさんは、旧花園町の出身ですが、子どもの頃は、どのように過ごしていましたか。
ゴルゴさん 子どもの頃は、とにかくよく遊びましたね。

小島市長 遊び場は荒川ですか？
ゴルゴさん そうです。仲間と荒川で泳いだり、河川敷にできた小さな池で魚釣りをしたり。楽しかったなあ。

小島市長 私も毎日、暗くなるまで遊んでいました。一生懸命遊ぶものだから、お昼に給食をおなかいっぱい食べても、夕方にはおなか減っちゃってね。

ゴルゴさん 僕も、給食は残さず全部食べていましたね。残っていたら、「おかわり！」って、よく列に並んでいました。

小島市長 給食といえば、現在、花園中学校と岡部中学校に給食場を整備していて、今年度中には完



こじますずわ 小島進（深谷市長）

成しますよ。
ゴルゴさん そうなんですか。
小島市長 旧深谷市と旧川本町の学校には、校内に給食場がありました。旧岡部町や旧花園町では、給食センターから配送していただいています。
ゴルゴさん 確かに、花園小学校の裏に給食センターがありますね。
小島市長 学校に給食場があれば、作り手の顔が見えるし、出来たてのおいしい給食が食べられますよ。給食は、成長期の子どもの体の体をつくる大事なもので、ここはしっかり力を入れていくことと思い、給食場の整備に取り組んできました。

ゴルゴさん すばらしいことですね。給食は、子どもの成長には欠かせない大事なものです。食べたものが人間の体をつくっていくので、小・中学校の一番育つていく時期に、しっかりと体にいいものを食べないとまずいからね。

地域の絆が『命』！

小島市長 ゴルゴさんのお母さんは、深谷にお住まいなんですよ。
ゴルゴさん おかげさまで、深谷で元気に暮らしています。こちらは商売をしているので、その手伝いをしたり、近所の人遊びに来て話をしたり、楽しく過ごしていますね。おふくろは、若い頃から子

どもを背負って家事を一手に引き受け、仕事もしていたので、その時に酷使した膝や腰が痛むらしく、よく「痛え、痛え」って言うてますよ。
小島市長 うちも商売をやっていたのでわかります。市では、いろいろな介護予防事業などもやっているの、ぜひ体のケアをしながら、いつまでも元気なでいていただきたいと思います。

ゴルゴさん そうですね。体は大事にしてもらいたいです。

小島市長 お父さんは、残念ながらお亡くなりになりましたが、お父さんの思い出をぜひ教えてください。

ゴルゴさん おやは、配達や御用聞きで、いつも走り回っていましたね。あと、消防団にも力を入れていて、火の見やぐらから鐘の音が聞こえると、火消しの法被を着て、飛び出して行きました。
小島市長 議員もされていましたが、まさに地域のために生きていましたね。お父さんが役員をされていた商工会は、今もいろいろなことに挑戦して頑張っていますよ。

ゴルゴさん 素晴らしいです。消防団も商

工会も、まさに地域の絆が『命』ですよ。それが無くなったら、その地域がなくなってしまう気がします。

『深谷』への思いを漢字一文字で表すと…

ゴルゴさん といえば、漢字の成り立ちや意味に独自の解釈を加える『命の授業』の活動が注目されています。今回の対談では、お互いに『深谷』への思いを漢字一文字で表していただきました。



ゴルゴ松本（お笑い芸人）

1967年、埼玉県深谷市（旧花園町）生まれ。お笑い芸人として活躍するほか、漢字の成り立ちや意味に独自の解釈を加える『命の授業』の活動は、全国で話題となっている。



▲それぞれ色紙に「深谷」への思いを表す漢字を書いてもらいました。

たのしい

楽



小島市長 ゴルゴさんはどんな漢字を書きましたか？

ゴルゴさん 深谷は僕のふるさとだから、『ふるさとの音』と書いて『響』です。

小島市長 ふるさとの音、う一言葉だね。

ゴルゴさん 『響』の中にある『郷』という文字は、向かい合った食事をしてる姿なんです。食べ物を通じて、お互いの気持ちを交流させていくことじゃないかな。

小島市長 人と人との交流が、音のつなぎに響きあいます。そんなイメージでしようか。



▲『響』の解釈をするゴルゴ松本さん

は系なんです。木に繭がなるとそこから糸を紡いでいくことなんです。

小島市長 糸を紡ぐって、『地域の絆』に近いものがありますよね。一人ひとりが糸のようにより合っていて、地域の絆ができて、つながっていくという感じでしょうか。

ゴルゴさん まさに、楽しさの中には、地域の絆があることだと思います。さすが市長！

小島市長 ありがとうございます。『ゴルゴさん』もありがとうございます。勉強になります。深谷の子どもたちも『ゴルゴさん』のつなぎに、興味を持っていろいろなおことに取り組んでもらいたいです。

ゴルゴさん 僕が全国をまわってよく子どもに言っているのは、米沢藩主であった上杉鷹山の『為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり』という言葉です。『やればできる、やらなきゃできねえ』何事もできねえのは、その人がやらねえだけだぞ、って。

小島市長 深谷の子どもたちにもぜひ伝えたい言葉です。

ゴルゴさん 言葉には力があるから、これこそ子どもたちが『そうか、

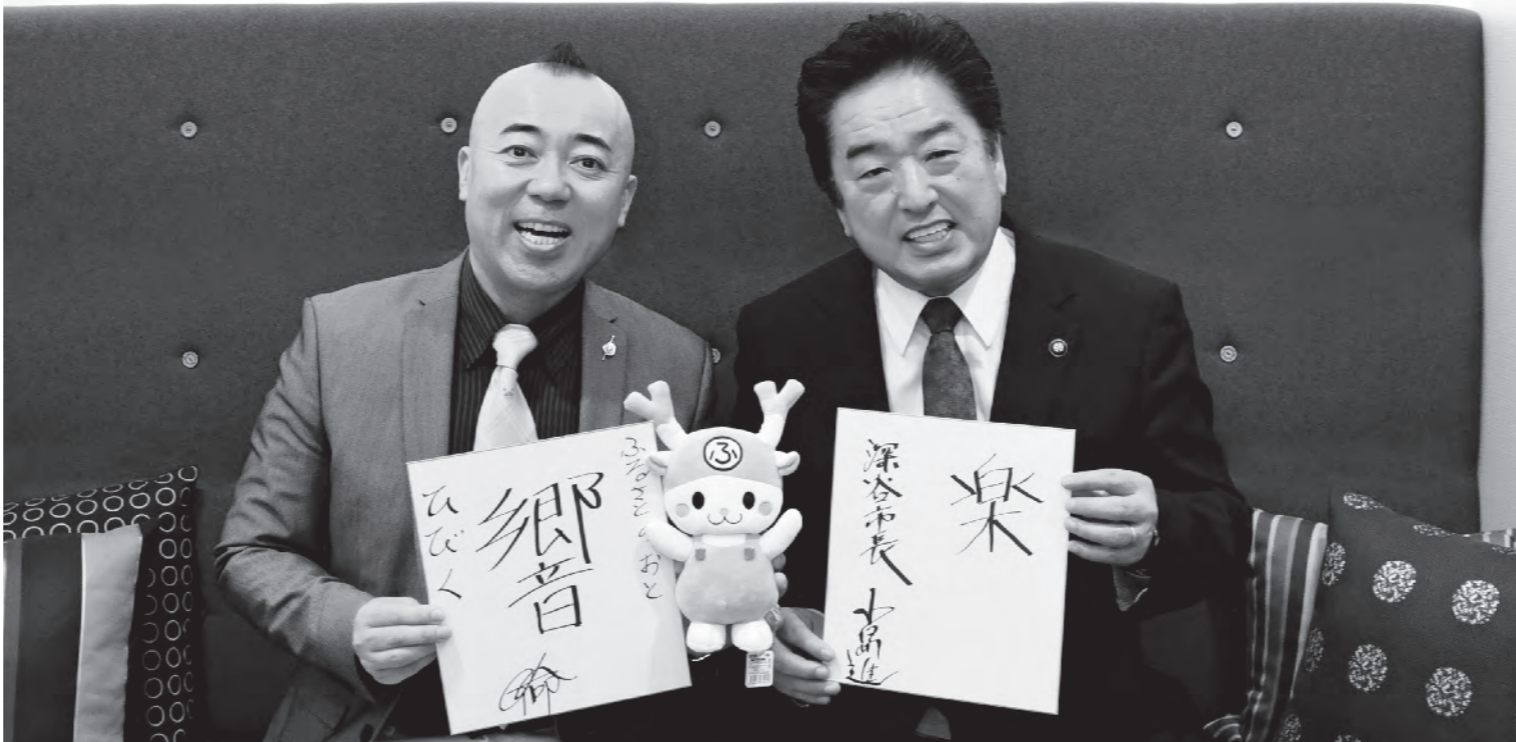
メッセージしようか。『ゴルゴさん』そうですね。『小島市長』すてきですね。私は、『楽しさ』の『楽』じゃ。『ゴルゴさん』『楽』は楽しく、幸せになるといっていますからね。いい文字ですよ。

小島市長 私には、これまでもっと『深谷を楽しいまちにしたい』という思いがあって、さらに深谷は『肩肘を張りないで楽に過ごせるまち』だと思ってるので、この漢字を選びました。ゴルゴさん、ぜひ、この漢字の解説をお願いします。

ゴルゴさん 楽の中にある『白』は繭のこと、白の左右にある点々は『存』です。

小島市長 私もそう思います。まさに深谷の農産物は地域の魅力そのもの。それを磨いてもっと輝かせて、さらに価値を高めていくことが必要だと思っております。

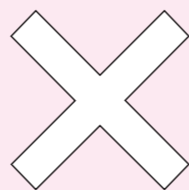
ゴルゴさん これからも花園インターチェンジの周辺は、どんどん変わっていくと思いますが、ちょっと裏に入ると変わらないものもたくさんあります。新しいものも大切だけど、古くからある大切な野山とかの中にこそ、地域の魅力があると思っんです。だから、新しいものとちゃんと融合させて、もっともっと地域を輝かせてほしいって思います。



深谷は僕のふるさとだから、ふるさとの音と書いて『響』です。

ゴルゴ松本

〈深谷市出身・お笑い芸人・深谷市親善大使〉



小島 進

〈深谷市長〉

やればできるんだ』って気付いてくれるって信じています。

もっともっと地域を輝かせてほしい

小島市長 ゴルゴさんがいた頃比べて、地元の風景はずいぶん変わったのではないですか。

ゴルゴさん 花園インターチェンジの周りとか、全く違いますね。バイパス通りとか、全部畑でしたよ。それが今は全部お店になって、帰るたびに「あ、また店が増えた」って思っています。

小島市長 秩父鉄道に、『ぶかや

花園駅』という新駅ができることは存じますか。

ゴルゴさん この間帰ったときに聞きました。『駅』には宿場という意味があり、宿場って馬を休ませるような場所だったから『馬へん』が付いているんです。そして昔の『驛』の字には、『幸』っていう字が入っていますよね。だから『駅』とは、人が集まってきて、幸せにする場所だと思っんです。

小島市長 実は今、ぶかや花園駅の周辺で、花園インターチェンジを核としたプロジェクトを進めています。花園インターチェンジは深谷の大きな強みですから、インターチェンジの利点を生かして農業と観光の拠点を作り出し、人を集めて地域を盛り上げ、みんなを幸せにしたいと思っています。

ゴルゴさん 人が集まってきて幸せにするという意味では、インターチェンジも『駅』ですね。

小島市長 確かにそうですね。『ゴルゴさん』小島市長、観光って『光を観る』と書くように、その地域の輝いているものを見る、っていうものですか。ぜひ深谷で採れる野菜とか、前面に押し出してほしいんです。



▲固い握手を交わすゴルゴ松本さんと小島市長